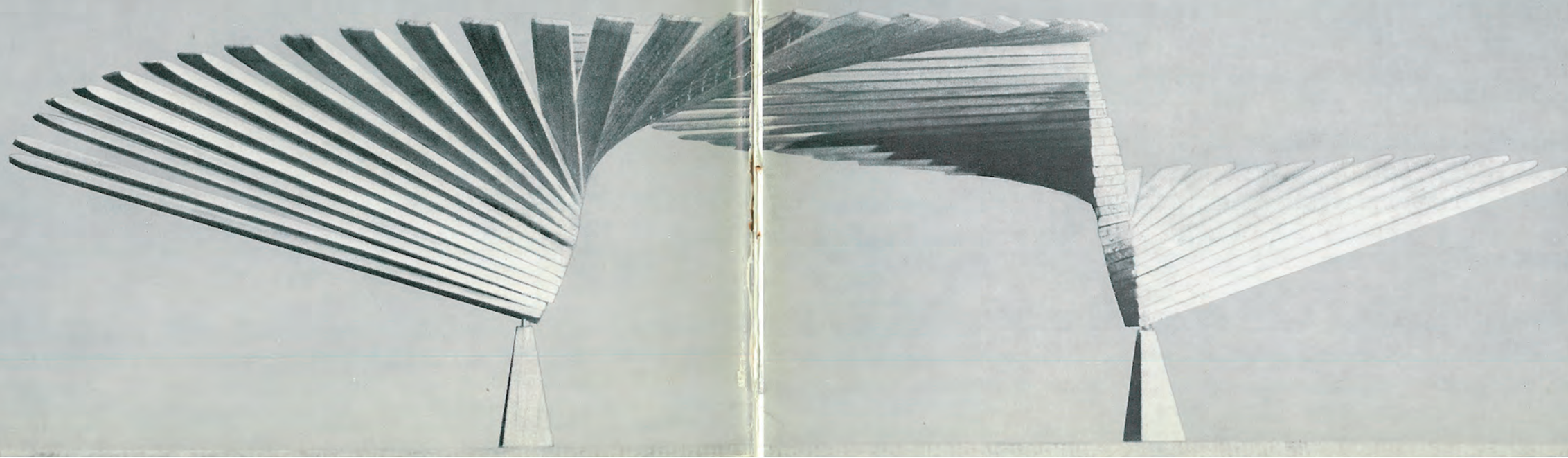
学校法人　桑沢学園　桑沢デザイン研究所
東京都渋谷区北谷町32 ■ 電話　東京　463－2431(代表)

学校法人　桑沢学園

桑沢デザイン研究所
1967

桑沢デザイン研究所教育の趣旨

デザインは物の外面的な装飾であったり単に販売促進のための表現であるのではなく　ひとびとの生活の向上のために　工業生産や視覚伝達・生活環境を　より快適なものにしてゆこうとする造形活動であります
したがって単なる自己表現というより　社会に責任をとる表現であり
デザイナーは　現代の社会や産業がはらむ矛盾を解決する文明的な使命をもつものといえましょう　そこで離れ離れになっている人間と機械
美術と技術　精神と物質を総合して明日のよりよい生活様式や精神風土を創造することがデザイナーに期待されているというべきであります
そのために桑沢デザイン研究所の教育は鋭い造形感覚や構成力　象徴性や機能性　豊かな創造力　また　的確な技術を身につけ　新しい物の見かたや考えかたをつかみ　デザインの基礎と本質を体得させることに重点をおいています　そして広い視野と深い教養をもった人として　社会のなかでデザインをとおしてよく協同し　根強く謙虚に社会の進歩に貢献しうる人材の育成に力がそそがれ着々とその成果をしめしております
それは当初から純粋にデザイン教育の場として　基礎教育と専門指導
実習と学科　個性と原理のひびきあう特色ある教育計画と　第一級の教授陣の指導のたまものというべきでありましょう

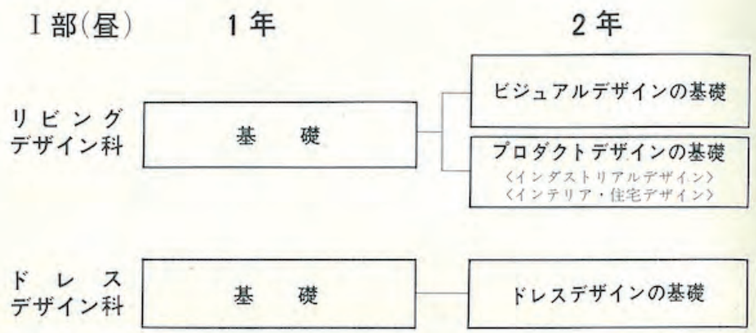


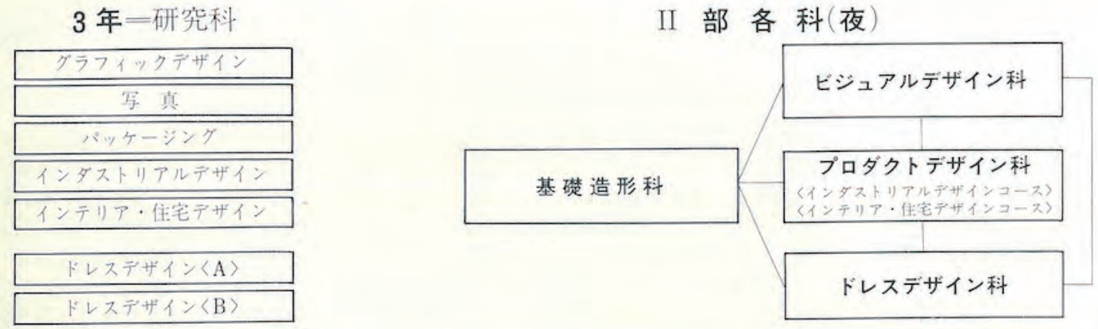
沿革

創立にさきだつ10数年以前より　桑沢所長は自身のデザイン活動をとおしてデザイン各分野の総合的な専門教育　およびそれらの基礎教育の重要性を痛感していました　このような所長の理想と情熱に共感した現教授の方々の協力をえて　桑沢デザイン研究所が設立されました

昭和29年４月	東京都港区青山に　桑沢デザイン研究所設立〈所長・桑沢洋子〉
昭和32年12月	学校法人・桑沢学園　桑沢デザイン研究所となる
昭和33年４月	校舎を現在の渋谷区北谷町に新設移転〈鉄筋コンクリート３階 延 671M²〉設計・増沢洵建築設計事務所
昭和35年４月	第一次増築〈延 1303M²〉
昭和36年12月	第二次増築〈延 1615M²〉
昭和38年10月	桑沢学園・桑沢デザイン研究所創立10周年記念行事
昭和41年４月	学校法人・桑沢学園《東京造形大学》開学〈学長・桑沢洋子〉

部・科の構成





教員一覧

教養学科

阿部公正　デザイン史
芦原初子　英語
泉　真也　デザイン論
岡谷公二　美術史
神之村あやめ　英語
霧生和夫　仏語
香山健一　現代社会論
清水幾太郎　特別講義
志水速雄　造形社会学
島田　厚　現代思想論
田中靖政　現代文明論
中川作一　現代文明論
中沢護人　技術史
信定宏郎　美術史
浜口隆一　特別講義
松谷　彊　造形原論　デザイン史
三木多聞　近代美術史
南　博　特別講義
村上一郎　造形心理学　デザイン論
山本武利　現代社会論
渡辺慎吾　英語

構　成

相場秀夫　構成
海本　健　構成　色彩
清原悦志　構成
郡山　正　構成　図法
佐藤邦夫　色彩
須賀攸一　図法　文字
高橋正人　構成
高山正喜久　構造
田中　淳　構成
土屋義孝　図法
戸村　浩　構造
羽原粛郎　構造
日比野夫美子　構成
真鍋一男　構成
宮沢タイ子　構成　色彩
矢野目　鋼　構成　写真

美　術

朝倉　摂　絵画　イラストレーション
石引かほる　コスチューム　ドローイング　絵画
岩野勇三　彫塑
上野　操　コスチューム　ドローイング　絵画
大成　浩　彫塑　絵画
尾崎ふさ　絵画
佐藤忠良　彫塑
森田信夫　絵画
渡辺恂三　絵画

グラフィックデザイン

粟津　潔　デザイン
秋山邦晴　デザイン論
上野　誠　木版実習
宇野亜喜良　特別講義
遠藤　享　デザイン
小幡　章　デザイン論
勝井三雄　デザイン
勝見　勝　特別講義
加藤清美　銅版実習
川俣正一　印刷概論
木村希八　石版実習
楠原義一　デザイン
草刈　順　デザイン
後藤英雄　デザイン
佐藤敬之輔　タイポグラフィ
佐野　寛　デザイン
杉田　豊　デザイン
田中一光　デザイン
田宮督夫　デザイン
針生一郎　デザイン論
林　進　デザイン論
福田繁雄　デザイン
藤原昌美　デザイン
道吉　剛　デザイン
宮内嘉久　デザイン論
宮野力哉　デザイン
向　秀男　特別講義
森　啓　デザイン
矢沢宏司　デザイン
山本隆太郎　印刷概論

パッケージング

芦原　晋　材料　技術
淡島雅吉　デザイン
古口謙二　デザイン
志津野知文　デザイン論
高橋満寿男　デザイン論
塚田　敢　デザイン　デザイン論
灘本唯人　デザイン
山本　茂　デザイン論
横山徳禎　デザイン

写　真

石元泰博　写真
伊藤知己　写真史

潮田登久子　写真実習
大辻清司　写真
河合玲二　写真
重森弘淹　現代写真論
高梨　豊　写真
滝口修造　現代写真論
英　伸三　報道写真論
浜田浜雄　特別講義
樋口忠男　スタジオ撮影
平野　久　写真
保積英次　感光材理論
目島計一　写真
山田脩二　写真製版
脇　リギオ　カラー写真

インダストリアルデザイン

石倉　巌　デザイン
鵜飼義一　材料
魚住双全　表現実習
内村喜之　デザイン
金子　至　デザイン
喜多智慧夫　製図
ジョセフ兼沢　表現実習
寿美田与一　デザイン論
手塚敬三　材料
豊口克平　デザイン論
豊口　協　デザイン論
中村秀男　材料
真水公雍　製図
皆川　正　デザイン
村越　康　材料

インテリア・住宅デザイン

相沢　正　材料
青木恒太郎　材料
稲田尚之　住宅デザイン
戎居研造　住宅デザイン
遠藤誠之　住宅デザイン
大橋晃朗　住宅デザイン
小能林宏城　住宅デザイン　デザイン論
鍵和田　務　デザイン論
狩野雄一　インテリアデザイン
北村吉一　構造デザイン論　図法
剣持　勇　特別講義
坂田種男　インテリアデザイン
佐藤なお　住宅デザイン
篠原一男　住宅デザイン
白石勝彦　インテリア家具デザイン
清家　清　住宅デザイン
中村圭介　インテリア家具デザイン
難波恒夫　構造デザイン論
林　雅子　住宅デザイン
原　広司　建築構造概論
東島昌子　インテリアデザイン
松村勝男　特別講義
村松貞次郎　特別講義
柳　宗理　特別講義
山口勇次郎　インテリア家具デザイン

ドレスデザイン

秋元恵子　デザイン
東　昇　被服材料学
安東武男　デザイン
飯塚春次郎　既製服縫製
五十嵐都美　技術
石津謙介　男子服飾論
石丸尚代　既製服デザイン
伊東真紀子　デザイン
大空淑子　モデリング
小川安朗　被服材料　被服文化論
川合　優　モードドローイング
北岡幽子　帽子デザイン
国方澄子　モデリング
熊井戸立雄　編集
桑沢かね子　技術
桑沢君子　和服理論
桑沢洋子　デザイン
根田みさ　デザイン
近藤百合子　デザイン
笹原紀代　ピンワーク
佐藤みさ子　デザイン
鈴木栄三郎　ミシン操作
谷　長二　流行論　男子服飾論
谷　二三　デザイン
丹野　郁　服装史
塘　和夫　ニットウエア
豊田高代　デザイン
中島道子　デザイン
中田幸平　舞台衣裳論
塙　経亮　技術
原田二郎　服装史
平田暁夫　帽子デザイン
福村千英子　デザイン
前田晃子　デザイン
真野誠二　舞台衣裳デザイン
宮内　裕　モードドローイング
本吉春三郎　日本衣裳風俗
森　妍子　手芸
諸岡美津子　デザイン
柳沼恵美子　デザイン
山本良子　被服材料学
横山雄一　既製服デザイン

海本小織　テキスタイルパターン
木村美知子　織物
近藤　英　染色
砺波宏明　染色化学
土肥悦子　織物
錦織　弘　テキスタイルパターン
藤本経子　織物
四本貴資　染色

〈Ⅰ部〉リビングデザイン科

この科は、ドレスデザインを除く、生産、環境、伝達に関する広範なデザイン諸分野にわたっての専門教育をおこなっています。

1年では、基礎課程として、将来デザイナーになることへの積極的な意欲と資質をもった学生に対して、その潜在する資質をひきだすとともに、学生が自からの能力を開発し得るように教科が組まれ、指導されます。なお、それぞれのデザイン分野の意義や相互関係を知り、自己の適性を判断して将来の指針を立てるための授業も全員が受けることになっています。

2年では、造形実習をいっそう深めていく一方、グラフィック、インダストリアル、インテリア・住宅の三者から一つのデザインを選んで専攻します。ここでは、1年で開発された創造能力をさらに発展させつつ、デザインを職業とする上で欠かすことのできない技術や理論の学習を通して、専門デザインの理解を高めていくように指導されます。

3年（研究科）では、2年までの課程を優れた成績で修了し、なおデザイナーとして意志強固な人を専攻コース別に少数選抜して、専門分野をより深く研究させ、その能力の向上をはかっています。

修業年限は2年ないし3年ですが、現デザイン界での第一人者を教授スタッフに迎え、そこで十余年にわたって検討を続け、実施されてきた授業内容は、全く研究所独自のものとして、社会的にも高く評価されています。

1年

1年では、各種の分野に共通する基礎の学習として、平面、立体、構造、色彩、材質、空間、時間、光等の要素を総合した授業をおこない、視覚の法則や発想の方法を与えるとともに、造形感覚をひきだすことによって創造の芽の発育を促し、あわせて初歩的な表現方法の訓練をします。

また、デザインの全体像を正しく認識することで視野を広げ、将来の専門を方向づけられるように、住空間、生活機器、視覚伝達に関する学習を、基礎デザインとして行います。さらに、デザイン活動の広い基盤の総合的な理解と判断をする力、および創造的に思考する能力を養うために教養学科を重視し、全人的な教育がなされています。

科目内容

- **構成**
  - 色彩・平面・立体・構造
  - 図法
- **美術**
  - 絵画
  - 彫塑
- **基礎デザイン**
  - 住空間
  - 生活機器
  - 視覚伝達
- **教養学科**
  - 美術史・技術史・デザイン史
  - 現代社会論・現代文明論・現代思想論
  - 英語

2年

2年では、1年の基本的な学習の上にたって、専門デザインの本質を把握するための基礎学習にはいります。

このために、一方では、基本的な造形力に一段と高度な技術練習も加えつつ、基礎造形を充実展開させます。他方では、視覚伝達、工業生産、生活環境の立場から、ビジュアルデザイン、インダストリアルデザイン、インテリア・住宅デザインの各専攻ごとに、その職業人を育成することを目的として、その必須条件であるデザインの意味、創造能力、技術的理解、表現力を体得するための訓練を重ねるとともに、デザイナーとしての厳しい態度を養います。なお、この学年での卒業生は短大卒と同程度の資格で就職ができます。

科目内容

- **構成**
- **美術**
- **グラフィックデザインの理論と実習**
- **インダストリアルデザインの理論と実習**
- **インテリア・住宅デザインの理論と実習**
- **写真**
- **パッケージング**
- **教養学科**

3年＝研究科

2年までを、入学したすべての学生に用意された課程とするなら、3年は、その中から、将来の仕事に優れた資質と積極的意欲をもった学生を少数選抜し、研究生という体制をとりながら、専門分野における各自の能力を深め発展させていく、いっそう厳しい課程であるといえます。

ここでは、各専攻コースごとに、主任教授を中心とする第一線のデザイナーや理論家、技術者などの教師のもとで、研究所独自の課題研究の方法が討議や実習によって進められます。なお直接、教師の人柄、思考過程、技術指導にふれるとともに、自主的な問題解決の態度や考え方が啓発され、いずれも専門家としての真剣で地道な研さんとなっています。

科目内容

- **専攻科目**
  - グラフィックデザインの理論と実習
  - パッケージングの理論と実習
  - 写真の理論と実習
  - インダストリアルデザインの理論と実習
  - インテリア・住宅デザインの理論と実習
- **教養学科**
- **特別講義・見学・その他**

1

1　彫塑

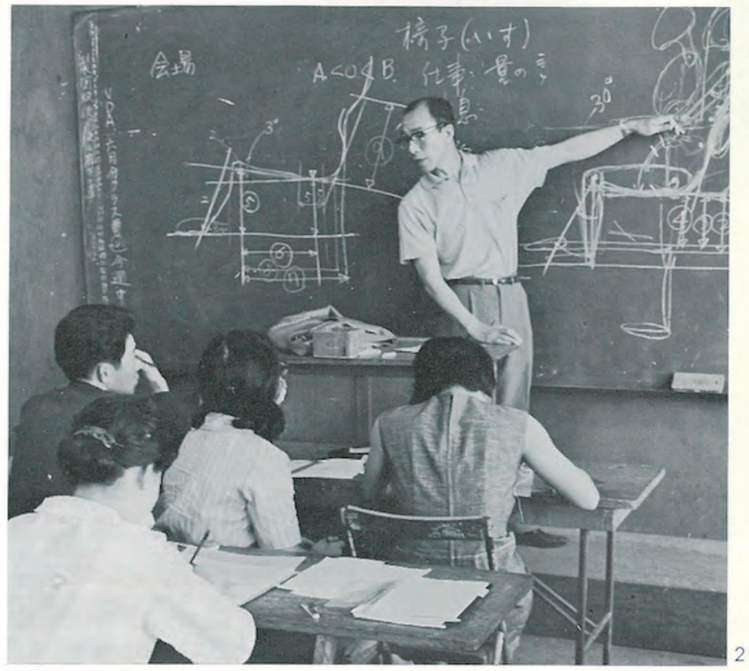
2　基礎デザイン（家具）の講義

3.4フォルム・材料と道具との理解を深めるハンドスカルプチュア　その作品

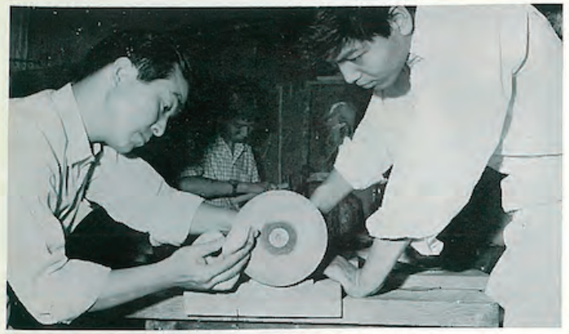
5　構成練習（紙を用いての版画制作）

6　色彩構成の作品

7　線材を用いた構造練習の作品

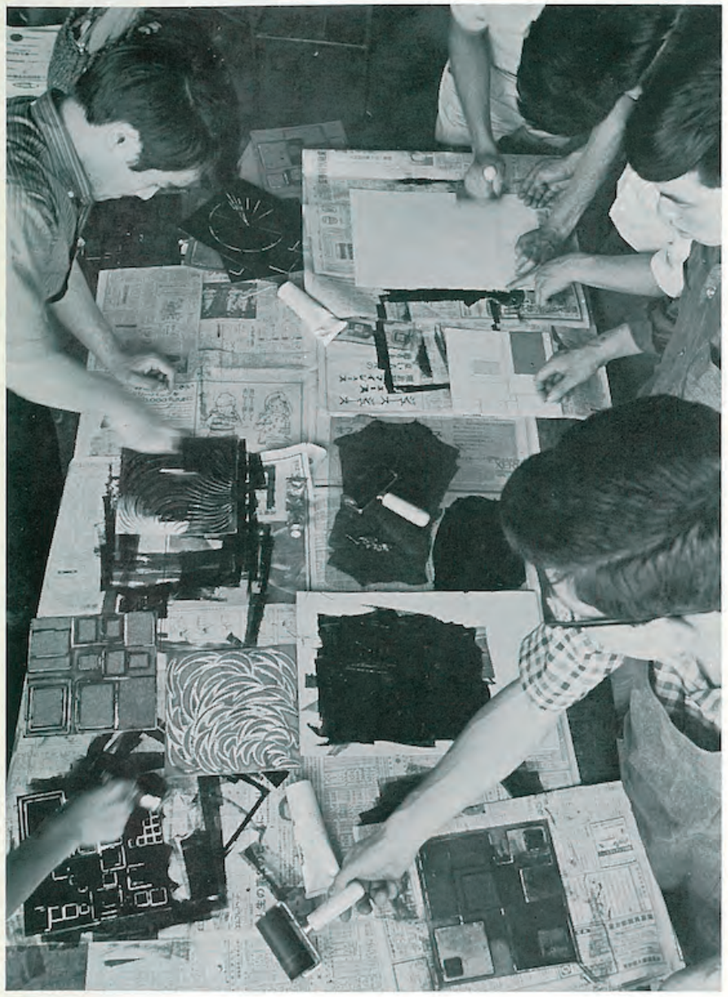


2

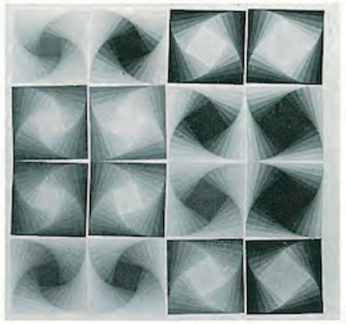


3

4

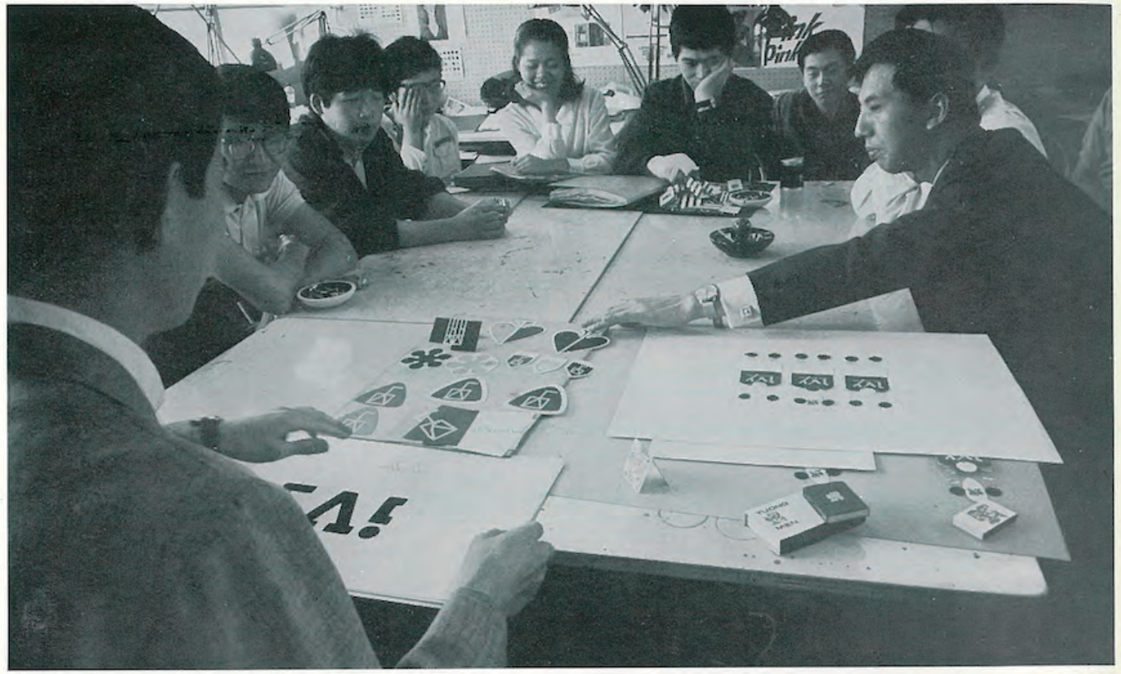


5



6

7



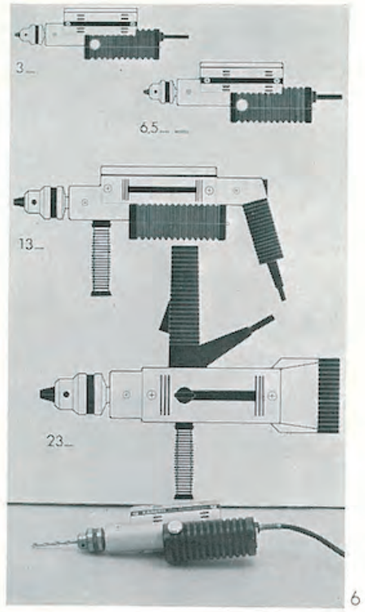
1

2

3

4

5



6

1　グラフィック(シンボル　マーク)批評
2　石けん容器のデザイン　批評風景
3　パッケージデザイン　表面処理研究
4　スタジオ撮影の実習
5　学生作品―毛糸のパッケージ
6　学生作品―電気ドリル

〈Ⅰ部〉ドレスデザイン科

これからのドレスデザイナーは、私たちの生活のうちでも最も身近な衣生活を、より美しく合理的に向上させていくという役割に加えて、繊維自体をデザインし選別する能力、あるいは衣服を工業製品として扱い、その生産をディレクトしていく能力などが要求される段階になっています。

当所のドレスデザイン科は、デザインの本質と、デザイナーとして必要な広い教養を身につけることを重視し、確かな造形力を把握させることに目標を置くと同時に、特に最終課程では、優れた資質とドレスデザインへの意志のはっきりした学生を少数選抜し、個々の能力と社会的需要に対応して、専門の分野を更に深く研究し、将来、服飾界において指導的立場で仕事のできる人材を養成するための、独自の教科を組んでいます。

1年では、ドレスの基礎技術と平行して、各種のデザインに共通の造形感覚の基礎訓練を行い、各人の個性をひきだし、観念的なものを打破しながら、新鮮な創意を発揮できるような教育を行います。

2年、3年（研究科）においては、基礎理論を展開させたデザインの表現実習や表現技術の学習をとおして、職業人としての能力を高めるとともに、服飾界および繊維界より優れたデザイナーやディレクターを招き、先生方の豊富な体験による指導によって、多角的に、ドレスデザイナーに欠かせない素養を深めていく授業が行われています。

1年

1年は、ドレスデザインの基礎課程であり、色彩、デッサンなど造形感覚の基礎訓練によって、構成力を系統的に高めると同時に、創造的思考の能力を養うことを目的に、教養学科にも重点がおかれた教育がなされ、デザイナーに必要な、広い視野をもった人間として成長することに主眼がおかれています。

またドレスデザインの基礎理論と基礎感覚実習によって、ドレスの配色、形、材質の基礎を体得させ、生活環境の理解と人間工学的研究による衣服の構造を把握させます。

さらにデザインの表現技術として、当所が独自に研究した合理的な製図と裁断理論にもとづいた技術の実習を行い、発想の的確な表現や製作の訓練をいたします。

科目内容

●構成

色彩の基礎理論と実習

●美術

石膏デッサン　ヌードデッサン

●教養学科

美術史・技術史・デザイン史

現代社会論・現代文明論・現代思想論

英語

●ドレスデザイン

基礎デザイン

基礎理論・基礎感覚実習

技術理論Ⅰと技術実習Ⅰ

基礎製図理論と実習　縫製実習

服飾概論

住空間

2年

2年では、基礎造形やドレスデザインの基礎理論および実習を、さらに応用面に展開し、デザインの発想練習を重ねて、次第にドレスデザインの具体的方向に焦点をしぼり、各人の個性とみあって創造力を高めるように、充実した内容ですすめられます。

技術の面では基礎製図の発展から、立体の量感を把握するためのモデリングまで指導し、デザインの実際的な表現技法としてこれを習得させます。ほかに、他のデザイン分野への関心を深め、ドレスデザインの広い活動範囲を認識するために、ビジュアルデザインや生活空間の基礎学習を行っています。

なお、この学年での卒業者は、短大卒と同程度の資格で就職ができます。

科目内容

●構成

平面

●教養学科

●ドレスデザイン

デザイン理論Ⅰとデザイン実習Ⅰ

基礎理論の展開　感覚練習　表現実習

コスチュームドローイング

技術理論Ⅱと技術実習Ⅱ

基礎製図の展開　応用製図の理論と実習

モデリング　製作

被服材料学　被服各論

3年＝研究科

3年では、2年までを優れた成績で修了し、将来への意志の確かな学生を少数選抜して、研究的体制のなかで専門的能力を深めます。ここには2つの専攻コースがあり、一方はドレスを量産的にとらえ、機能性や生産性、および素材の性質を十分把握して、それをデザイン面に展開する企画力や造形力を身につけ、企業の中で活躍できる人材を養成します。他方は、一品製品としてのドレスを研究するコースであり、個性豊かな発想と、それを完成させる高度な技術の習得に重点をおいた授業が行われます。いずれのコースも、実務経験豊富なデザイナーや技術者を教師に迎え、直接、教師の人柄、思考過程、技術指導にふれながら、専門家としての実力を養います。

科目内容

●専攻科目

ドレスデザインの理論と実習

デザイン理論Ⅱ　デザイン実習Ⅱ　技術実習Ⅲ　表現実習　モードドローイング、パターンデザイン実習

モデリング　製作

染色実習　染色化学

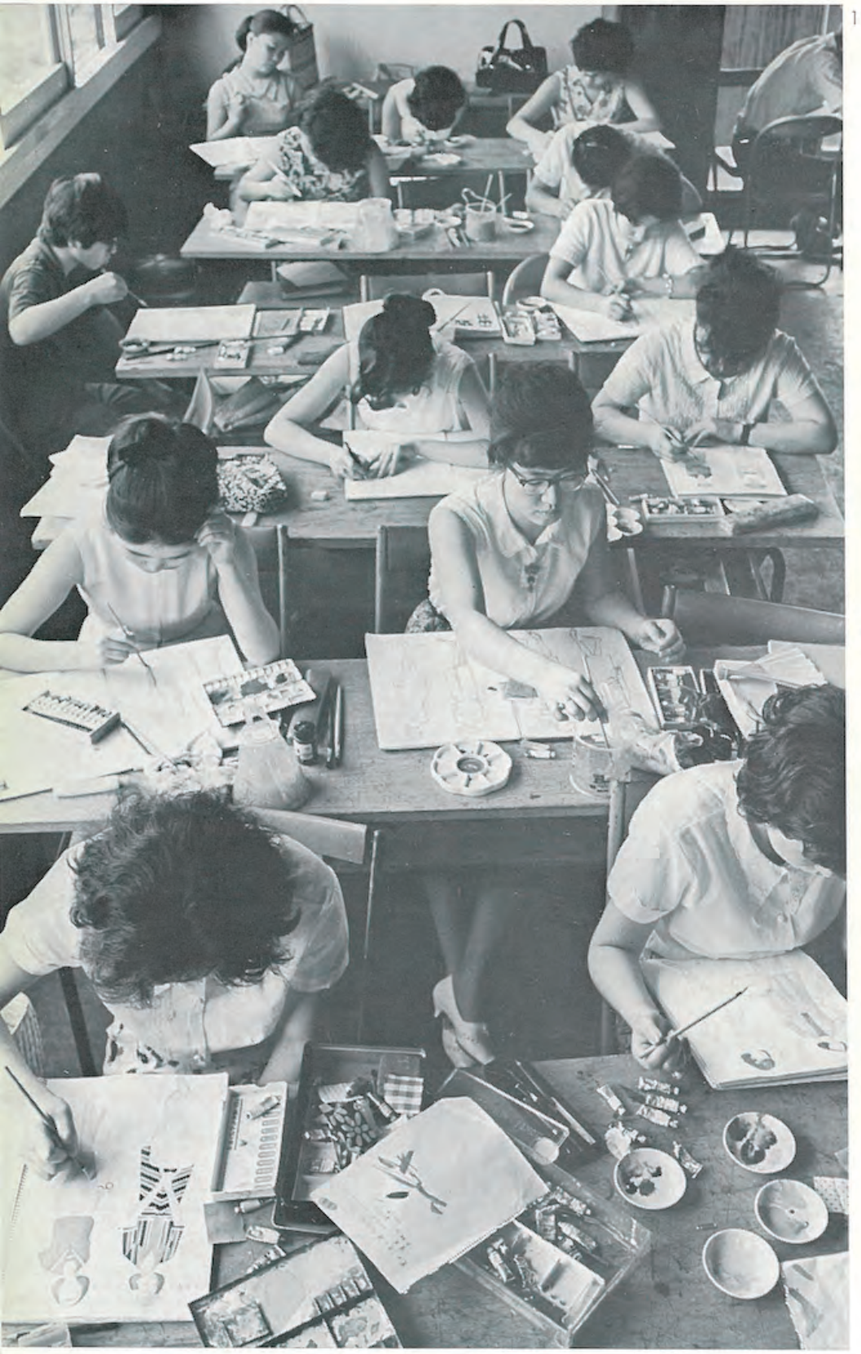
織物実習　繊維工学

●専門講義

被服各論　繊維企業論　流行分析　工芸史

●教養学科

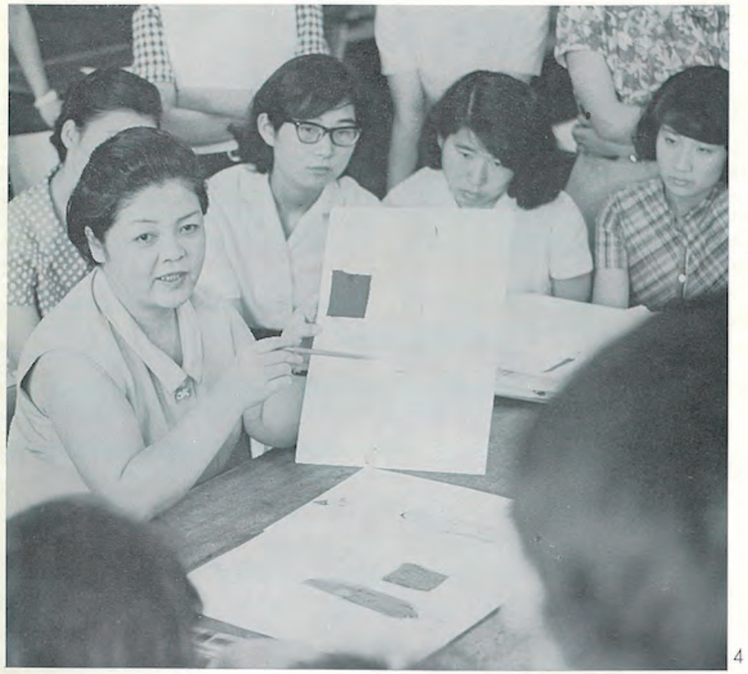
●特別講義　見学　その他



1

2

3



4

1　デザイン実習

2　学生作品―デザインプラン〈実用的なデザイン〉

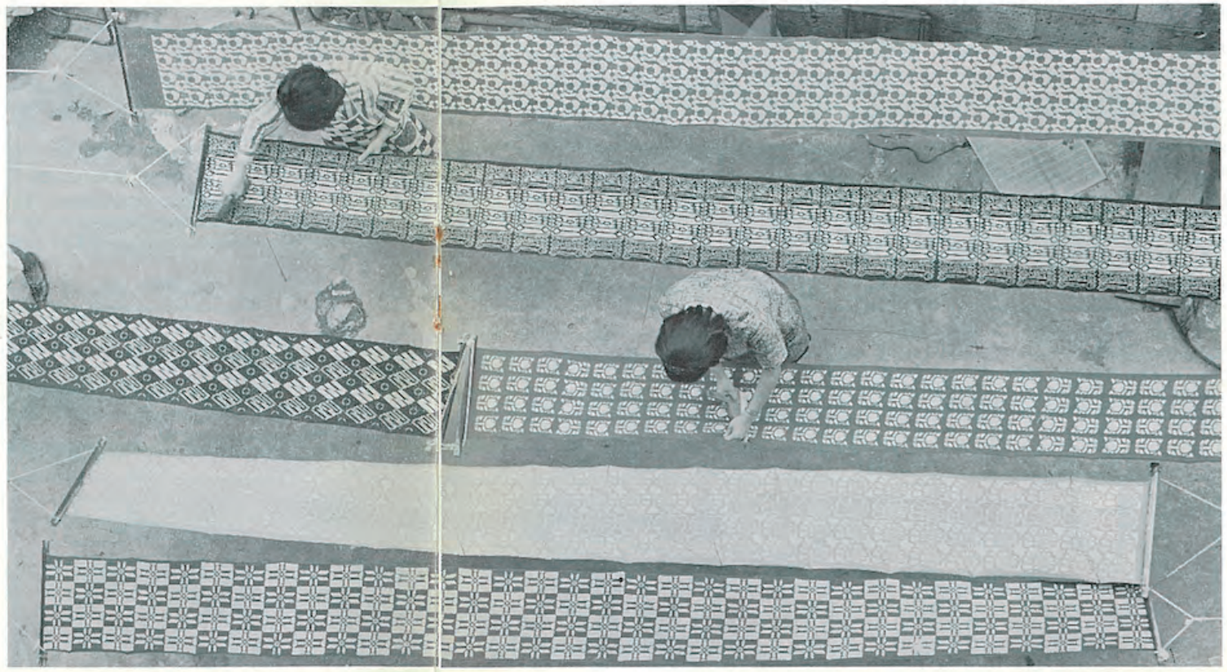
3　学生作品―デザインプラン〈大胆なアイデアに基づくもの〉

4　デザイン批評

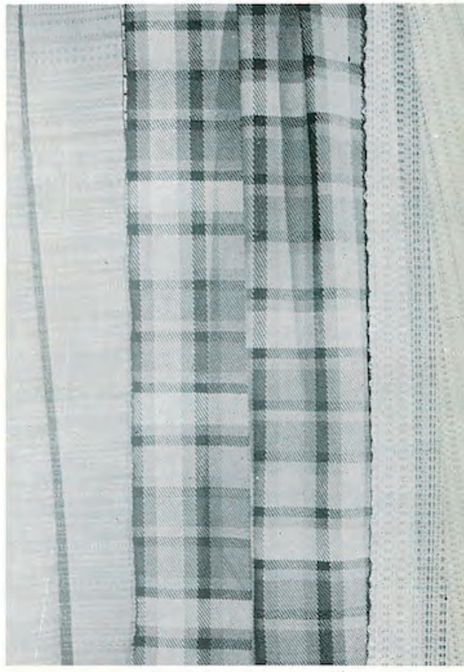
5　モデリング

5

1



3



4

2

5

1　デザイン実習　作品批評中の桑沢所長

2　織実習

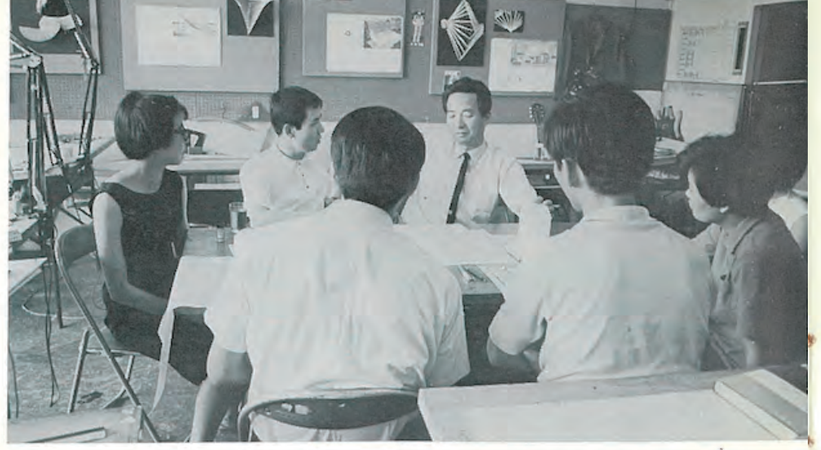
3　染実習

4　学生作品ー織作品

5　技術実習

ポートフォリオ

《インテリア・住宅デザイン》



1

人口増加による都市の膨張と混乱工業の発達による大気・河海の汚染と自然の破壊、商業の発展による醜悪な広告や建物の氾濫など、われわれの生活環境はいたるところ悪化の一途を辿っている。

科学・技術の進歩を誇りとする現代文明がこのような逆現象を生んでいるのは技術を統御してよりよい環境を生み出そうとする能力に欠けているからと云えよう。

こうした環境の改善については従来からも建築・土木・家具・室内装飾・設備・造園などの諸分野からそれぞれの専門の人材を育成してきていたが、それにもかかわらず依然としてよい生活環境がつくられていないのは、それぞれの専門家が単なる工業や農業の技術者であったり、芸術家であって、それらの仕事を相互に綜合・統御するデザインの能力に欠けていたからといえよう。

われわれの「インテリア・住宅」専攻はそうした偏った技術のよせ集めではなく、よい環境をデザインする能力を研究・教育することを目標にしている。

マスプロ教育時代に逆行しての少数精鋭主義の教育方針は生活環境の悪化や公害の波には押され勝ちだが、矛盾に満ちた社会や生活環境を少しでもよい方向に向けることができればと考えている。そしてそれ自体が環境のデザインとなるのではなかろうか。

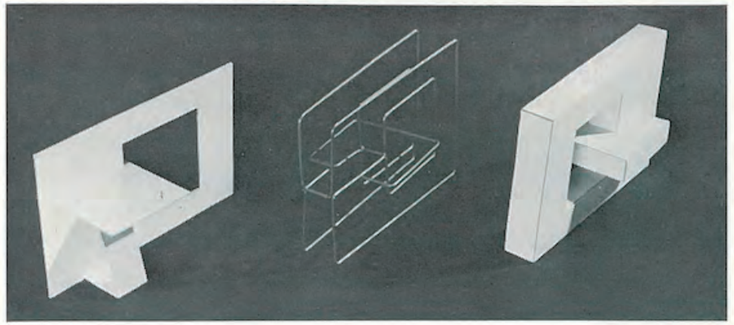
既成の専門家（前述した建築・家具・造園など）と協力してよりよい生活環境をつくり出すコーディネーターの養成がわれわれの目標といえるだろう。（清家　清　工学博士）

何んでもよいから物を作ったり、こわしたりすることに、僕は子供のころから興味があった。高校卒業のころそのことは、僕の中でいっそう強いものになっていった。そしてただそのことだけで桑沢デザイン研究所への入学を選んだ。入学して最初の一年間、基礎造形という学科目を通して、物を自分の眼で見、自分の手で作ることを教えられ、いよいよ子供のころからの僕の興味がかきたてられた。と同時に物を創るということの底の深さにいいようのない恐怖を感じはじめた。2年生に進学し、やや専門化した授業の中でそのことはいっそう大きくなってきた。しかし大きくなればなるほど物を創ることにたいする意欲とよろこびがましていった。同じ様に考え、なやむ友達と親しく話し影響しあうのも楽しいこととなった。3年になりより深い専門授業を通して、僕は不安と期待の中で、物を創れるというよろこびと自信を持ちはじめている。

（インテリア・住宅専攻　A）

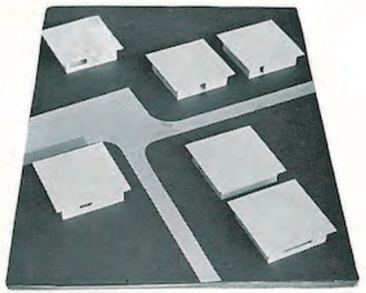
非常に自由です。学習態度はすべて個々の意欲にまかされ、怠けて遊びほうけていても非難の的にはなりません。又、仕事の上では大きな疑問をぶつければ大きな答が返って来る。先生はこだま的存在です。勉強の進歩のペースはすなわち我々の意欲のペースなのです。皮肉な意味での個人の自由さの中で、自分の学習意欲さえ見失わず、それに素直でありさえすれば、どこまでも伸ばしてくれるし、伸びて行く事ができます。そんな学校です。

（インテリア・住宅専攻　O）



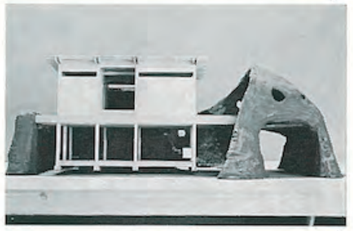
2

3

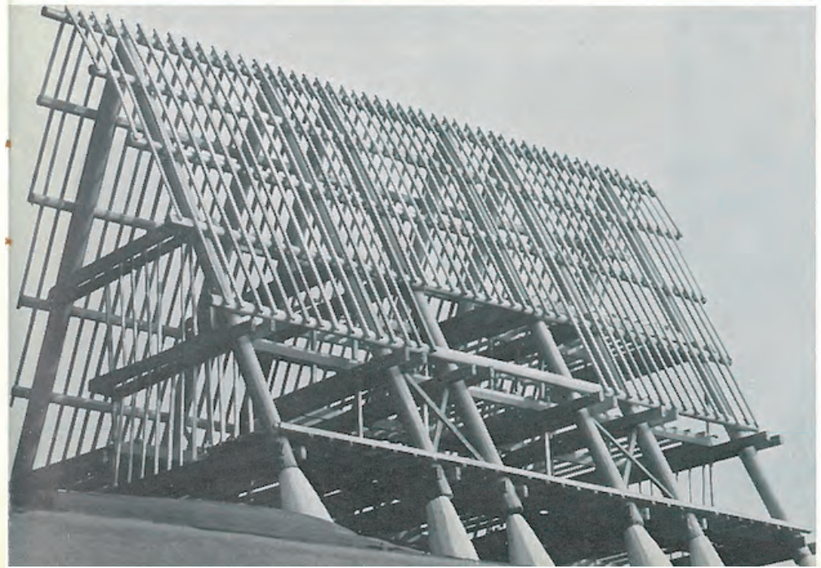


5

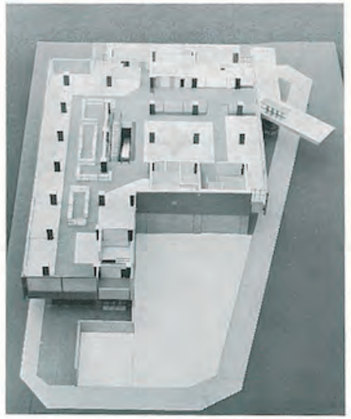
1　授業風景
2　基礎造形作品
3　椅子（模型）
4　住宅軸組（模型）
5　住宅配置計画
6　"週末の家"〈砂丘の家〉
7　デパート・インテリア（模型）



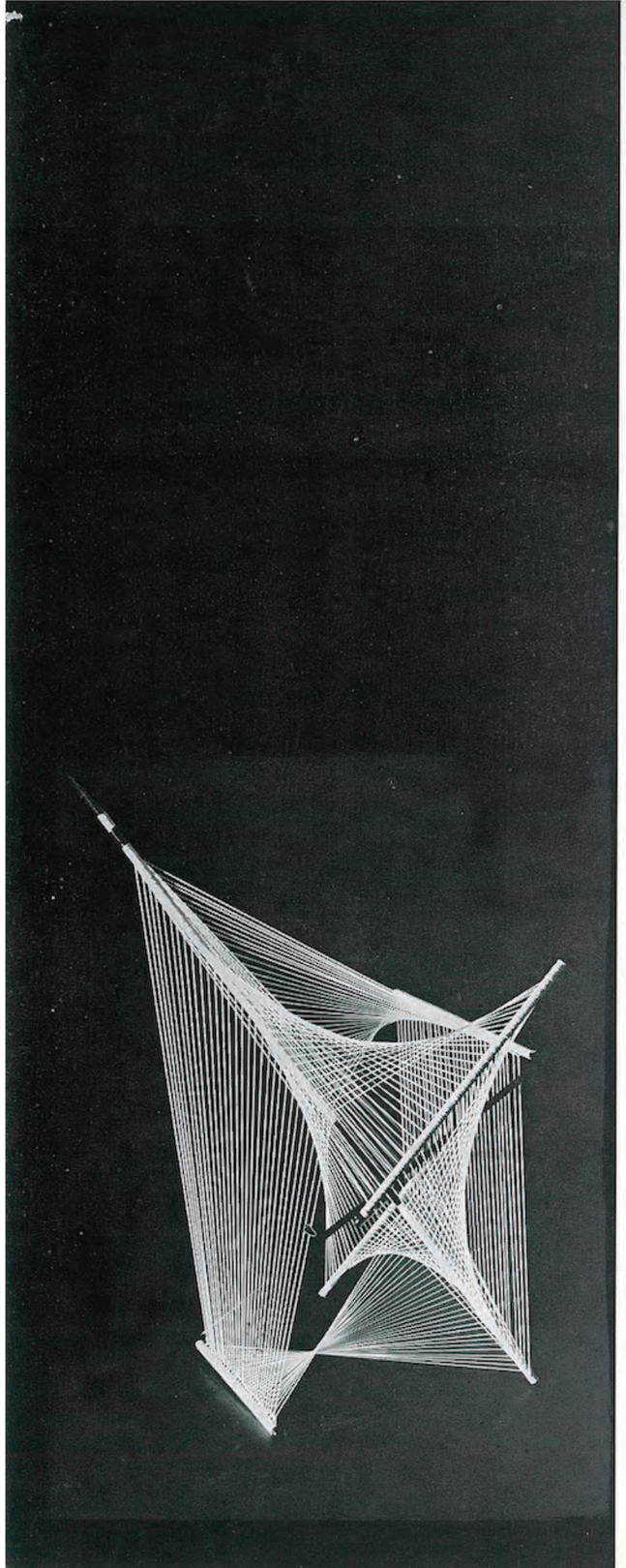
6



4



7



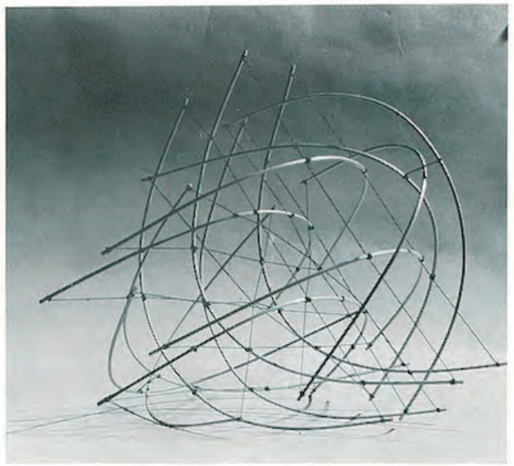
〈II部〉

II部は昼間、社会人として職業をもつ人、ならびに他の大学と兼修する人で、ザデインを学ぼうとする意欲ある人々を対象に設けられた夜間のコースです。概念にとらわれず感覚や発想の基礎を体得するための基礎造形科、グラフィックデザインを中心に、デザインの基本的問題の認識把握から具体的なデザイン指導がなされるビジュアルデザイン科、インダストリアルとインテリア・住宅デザインの2つのコースによって構成され、工業製品・家具・室内設計などの分析・発想・展開・技術指導を行なっているプロダクトデザイン科、感覚練習・発想練習を通して創造力を養い、基礎理論から応用面への展開・表現技術を深めるドレスデザイン科の4つがあり、夜間学ぶ人の特殊性に応じて、各科とも1年間で修了できる独自なカリキュラムが組まれています。

毎日、午後6時から9時までの講義・演習・実習にもかかわらず、基礎造形科からビジュアル・プロダクト・ドレスの各デザイン科に再入学して、2年間にわたって勉強する人が多く、創立以来、高い年令・学歴の人や、現在仕事をしている会社からデザインを学ぶために派遣されたりして集った広範な職業人へのII部独自の教育システムは、デザイン界に大きな貢献をしております。

基礎造形科

基礎造形科は、広範囲の造形活動における、豊かな造形感覚や構成力を体得することを目的としています。そのために、平面、立体、構造、色彩、材質、空間等、造形要素の学習をとおして、造形思考を拡充させ、視覚の法則や発想の方法を与えるとともに、初歩的な表現力の訓練を行います。また各種の用具、材料を体験することで個性の表現に導き、創造の萌芽を促します。さらに、デザイン活動の広い基盤を理解し、創造的思考能力を発展させるために、精選された教養科目がおかれ、将来専門を志す人はもちろん、現在デザインの仕事に就いている人にとっても、概念にとらわれない新鮮な感覚や、発想の基礎を身につけるのに適したクラスです。



科目内容

●構成

構成Ⅰ・色彩・構造

図法

文字

●美術

絵画

彫塑

●教養学科

造形原論・近代美術史

造形心理学・造形社会学

ビジュアルデザイン科

この科は、基礎造形科の課程を修めた人や、ビジュアルデザイン関係の仕事に経験のある人のためのクラスです。
ここでは、グラフィックデザインを中心に、イラストレーション、レタリングなどの学習が展開される一方、印刷技術と写真による指導が総合的・具体的にすすめられ、その間にビジュアルコミュニケーション（視覚伝達）の基本的な問題を、正しく認識把握させることに重点がおかれています。他に、写真パッケージング、選択必修科目として構成実習やデザイン論などが設けられており、ビジュアルデザイナーとして広い要求に対応し得る人材の養成を行っています。

科目内容

●グラフィックデザインの理論と実習

色彩構成
シンボル
タイポグラフィ
イラストレーション
図表デザイン
エディトリアルデザイン
アドバタイジングデザイン
印刷概論

●写真・パッケージング

●選択科目〈1科目選択〉

構成II
パターンデザイン
デザイン論A
デザイン論B

プロダクトデザイン科

この科は、基礎造形科の課程を修めた人や、プロダクトデザイン関係の仕事をしている人を対象としています。
授業は、インダストリアルデザインコースとインテリア・住宅デザインコースに分れて、それぞれの教育が行われています。インダストリアルデザインコースでは、デザインのための分析・発想・展開、またその表示のための技術指導があり、インテリア・住宅デザインコースでは、生活空間を正しく把握し、家具、室内設計や住宅設計の指導がなされ、どちらのコースも、発想や思考の過程を重視して、新しい材料や生産技術をデザインに活かし、明日の生活様式や精神風土を創造する根本的な態度の育成に重点がおかれています。

科目内容

●インダストリアルデザインコース

インダストリアルデザインの理論と実習
材料〈金属・プラスチックス－表面処理－〉
製図

●インテリア・住宅デザインコース

インテリア・住宅デザインの理論と実習
家具デザイン
構造デザイン論
設計製図

●選択科目〈1科目選択〉

構成II
パターンデザイン
デザイン論A
デザイン論B

ドレスデザイン科

この科は、基礎造形科の課程を修めた人や、ドレスデザイン及びその技術に経験のある人を対象としています。
デザイン実習では、構成実習とデザインの感覚・発想練習をとおして創造力を高め、デザインの基礎理論と対応させながら応用面へと展開させていきます。あわせて表現技術として、モデリングを中心にした技術面の学習を行ない、立体の量感を把握させます。
ここでは、短期間に、ドレスデザイン全般についての知識と技術を深められるよう考慮されていると同時に、産業のなかでのドレスデザインのあり方や方向を認識させ、社会性のあるデザイナー、ディレクターを養成することを目的としています。

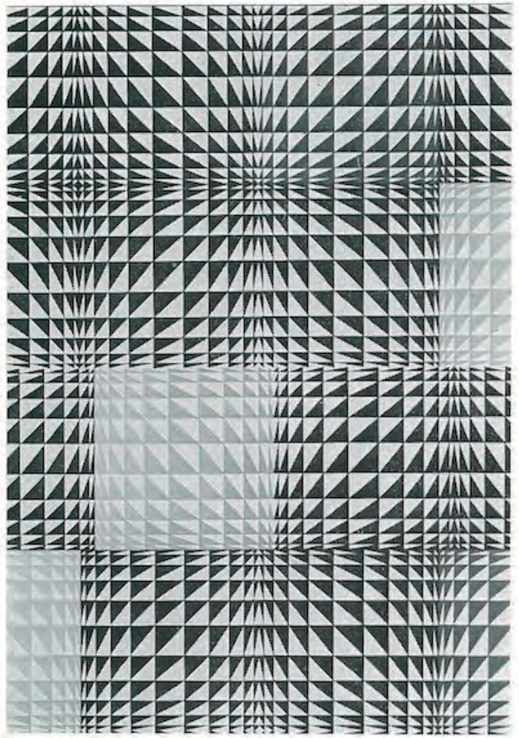
科目内容

●ドレスデザイン

デザイン理論とデザイン実習
基礎理論とその展開
構成実習－デザインの感覚練習
デザインの発想練習
モードドローイング
技術理論と技術実習
基礎理論とその展開
モデリング

●選択科目〈1科目選択〉

構成II
パターンデザイン
デザイン論A
デザイン論B



1 構成実習

2 文字

3 絵画

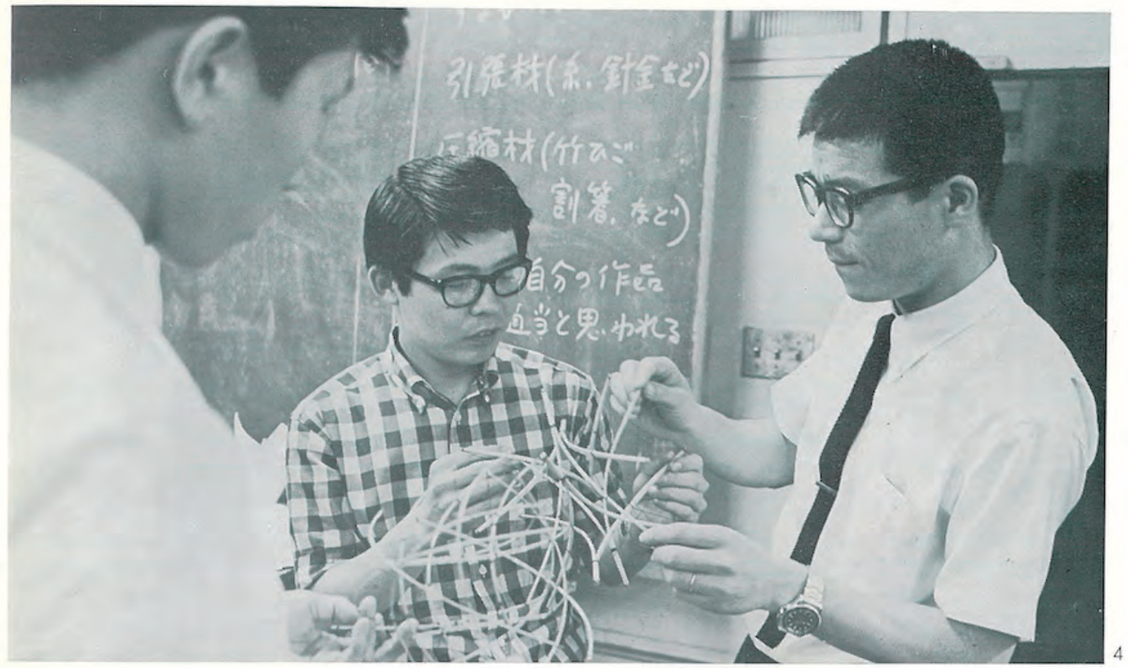
4 構成実習（構造）

5 色の混合実験

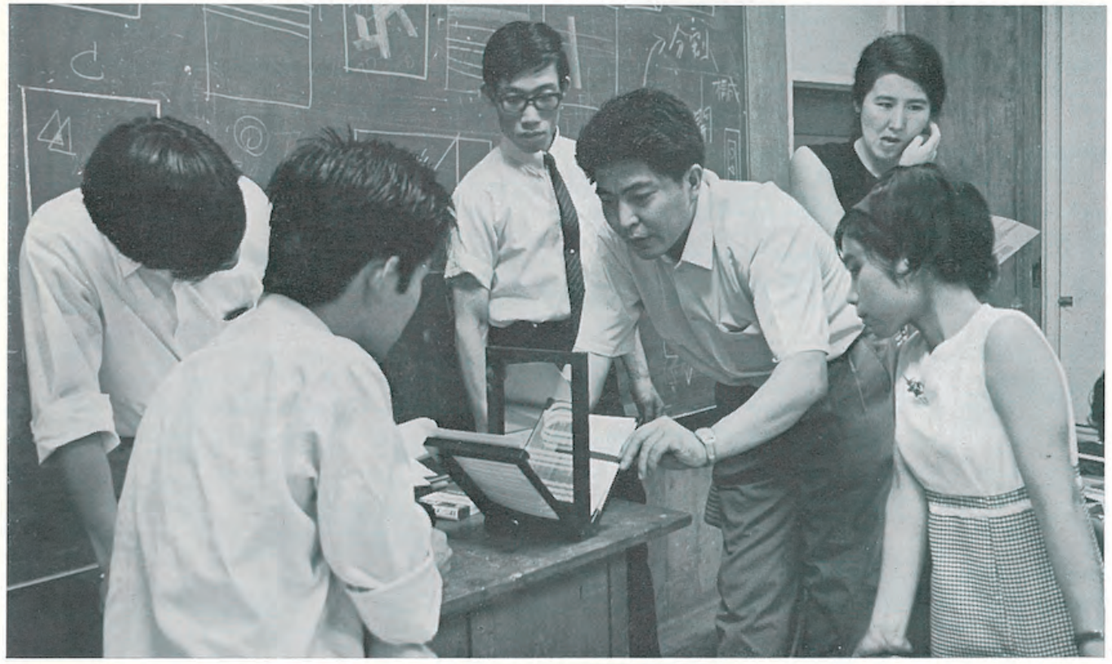
1

2

3



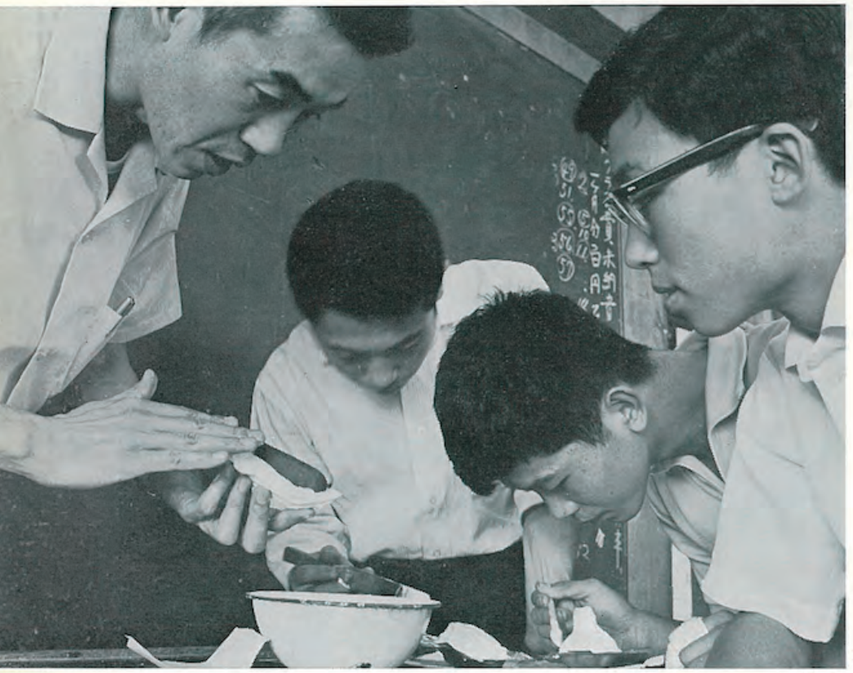
4



5

1

2



3

1　デザイン論ー講義……各科共通

2　レタリング実習……ビジュアルデザイン科

3　モデルメーキング……プロダクトデザイン科

4　印刷実習……ビジュアルデザイン科

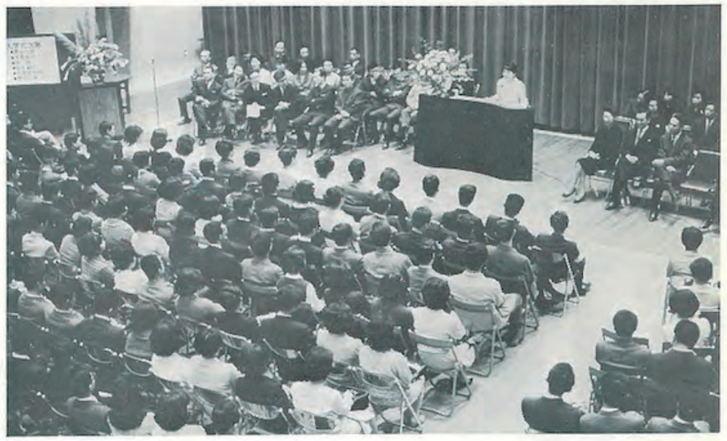
5　モデリング……ドレスデザイン科

4

5

学園風景

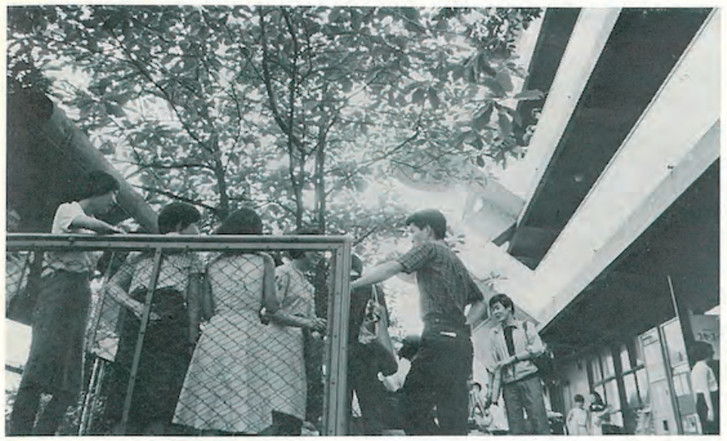
入学－校外授業－校外活動－記念展



▲ 入学式〈岸記念体育館講堂〉

◀ 校外授業－新宿御苑－テキスタイルパターンデザインのための花のスケッチ

▼ 卒業記念展会場〈国立競技場美術館〉



▲ 校舎入口附近の風景

▲ 校外活動－民家研究会“朱瑠”

▼ 卒業記念展準備風景

卒業後の方向

- インダストリアルデザイン
- パッケージデザイン
- グラフィックデザイン
- ディスプレイデザイン
- 服飾デザイン
- 帽子デザイン
- 映画　テレビ　舞台衣裳
- アクセサリーデザイン
- テキスタイルデザイン
- デザイン教育
- ディレクティング
- 編　集
- イラストレーション
- クラフト
- 家具デザイン
- 住宅デザイン
- インテリアデザイン
- 映画　テレビ
- 写　真

婦人子供既製服会社（商品企画調査研究室　デザイン　裁断　縫製）
紳士既製服会社（商品企画調査研究室　デザイン　裁断　縫製）
百貨店（商品企画調査研究室　婦人服部　子供服部　服飾付属品部　販売）
繊維会社（商品企画調査研究室＝服飾・染織）
婦人下着会社（商品企画　デザイン　裁断）
縫製会社　（デザイン　裁断　縫製）
洋裁店　（　同　上　）
服飾アトリエ（デザイン　製作）
アクセサリー店　（デザイン　製作）
帽子店　（同上）
服飾出版社　（編集）
映画・劇団・テレビ会社
デザイン教育
その他

就職雑感

《三菱レーヨン》勤務
高橋毅陸（ドレスデザイン科・ドレスデザインコース39年度卒）

どこの学校でもある程度の基礎を学ぶことができると思いますが、私は、3年間の桑沢生活のなかで、デザインすることの正しい意味を知ったと思っています。それは、まだ十分身についているとはいえませんが、私に限らず、これからデザインの世界に進もうという人にとって、必らず登らなければならない坂道だと思います。繊維業界のデザイン企画という仕事の場で、今、桑沢で学んだどんな小さなことでも活かし、さらに新しい分野に出ていく足がかりにしようと思っています。

《渡辺優デザイン事務所》勤務
小野美智子（リビングデザイン科・インテリア住宅コース39年度卒）

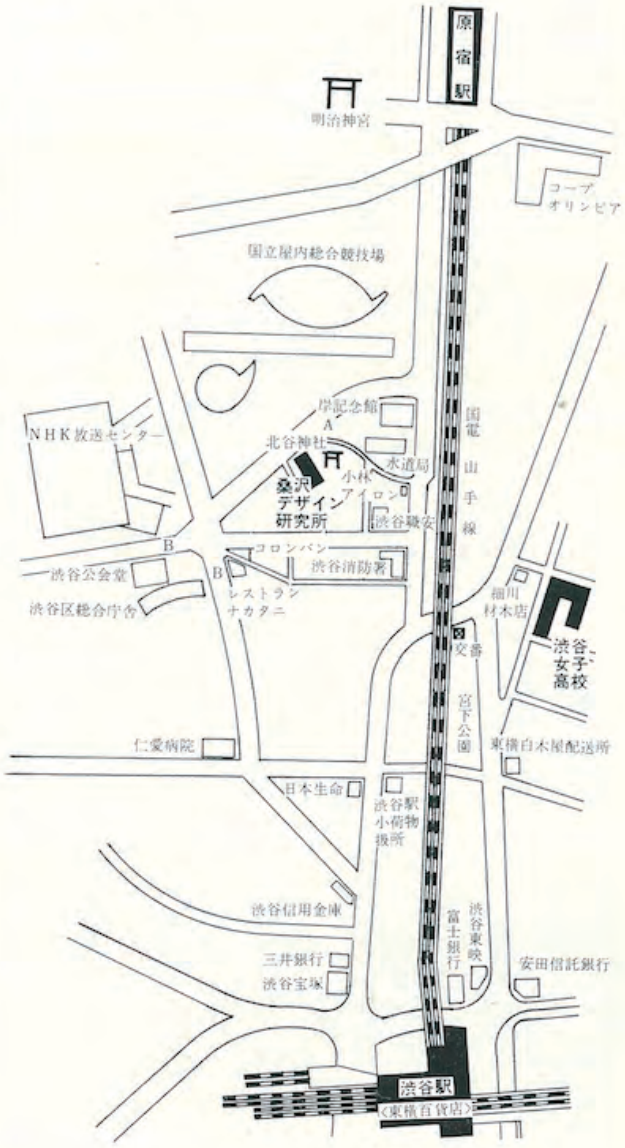
私のいる事務所は、インテリアが専門なのですが、なんといっても歴史の浅い我国でのこと、はっきりとした分野が確立しているわけではなく、結局は、家具をやったり、建築家に協力をしたりといったところが現状です。そんな仕事をしていると、桑沢在学中、学んだり遊んだりしていたなかで、吸収し考えたことが、直接役立つというよりは、何となくベースになったりエッセンスになったりしているような感じです。

グラフィックデザイン事務所
広告宣伝会社　代理店（広告宣伝　展示　装飾　写真）
出版社　（編集　レイアウト　写真　文案　企画）
印刷会社（企画　編集　包装デザイン　写真　広告宣伝）
製薬会社　（広告宣伝　商品デザイン　包装）
食品会社　（　同　上　）
テレビ放送会社（グラフィック　装置）
写真スタジオ
製紙・製カン・印刷会社（包装容器デザイン）
インダストリアルデザイン事務所
カメラ会社（製品デザイン　広告）
自動車会社　（　同　上　）
家庭電器会社　（　同　上　）
ラジオテレビ製造会社　（同　上）
ガラス器・陶器会社　（同　上）
家具会社　（　同　上　）
展示・装飾・室内デザイン社（展示　設計　広告）
建築設計事務所（デザイン　製図）
建設会社　（　同　上　）
百貨店　（宣伝　展示装飾　デザイン相談　家具室内デザイン）
デザイン関係サービスセンターまたはルーム（企画　展示　販売　商品選択）
デザイン教育
その他

- ビジュアルデザイン科
- プロダクトデザイン科
- リビングデザイン科
- ドレスデザイン科

各科の卒業生は　労働省認可の桑沢デザイン研究所無料職業紹介所によって有利な条件で就職できます

案内地図



国電═══原宿下車　徒歩6分
　　渋谷下車　徒歩8分

バス═══渋谷駅═══代々木スポーツセンター循環線　代々木スポーツセンター（岸記念体育館前）下車〈地図内A印〉徒歩1分

バス═══渋谷東横前←→中野駅・中野江古田・佼成会聖堂前・世田谷車庫・新宿駅西口京王百貨店前　各線　渋谷区役所前（放送センター前）下車〈地図内B印〉徒歩1分

索引

●桑沢デザイン研究所教育の趣旨═══表2
●沿革═══2
●部・科の構成═══4
●教員一覧═══4

●Ⅰ部　リビングデザイン科═══6
●Ⅰ部　ドレスデザイン科═══12
●Ⅱ部　基礎造形科═══21
●Ⅱ部　ビジュアルデザイン科═══22
●Ⅱ部　プロダクトデザイン科═══22
●Ⅱ部　ドレスデザイン科═══23

●ポートフォリオ〈インテリア・住宅〉═══18
●学園風景═══28
●卒業後の方向═══30

桑沢デザイン研究所　1967

発行所═══学校法人桑沢学園　桑沢デザイン研究所

東京都渋谷区北谷町32

編集═══桑沢デザイン研究所1967編集委員会

印刷所═══株式会社　藤栄

東京都渋谷区神宮前6－33－9

660806／12000